

## ヘンデル作曲 オラトリオ《メサイア》抜粋演奏

※ 歌詞は『新共同訳聖書』に基づく  
 曲目番号はペーレンライター版《メサイア》に基づく

## 第1部 予言と降誕

## 1. 序曲

メサイア全体の序曲。伝統的なフランス序曲形式で書かれており、2部分からなっています。第1部は荘重な付点リズムを持つ重々しい曲、第2部は速いフーガです。

## 2. アコンパニヤート (テノール) Comfort ye my people

「慰めよ、わたしの民を慰めよ」と、あなたたちの神は言われる。エルサレムの心に語りかけ、彼女に呼びかけよ、「苦役の時は今や満ち、彼女の咎(とが)は償われた」と。呼びかける声がある。「主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。  
 (イザヤ書40:1-3)

序曲が半終止すると「慰めよ(Comfort)」というやわらかな言葉で歌詞が始まります。

## 3. アリア (テノール) Every valley shall be exalted

すべての谷は身を起こし、すべての山と丘は身を低くせよ。険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。(イザヤ書40:4)

曲調ががらりと変わります。この曲では、「高く」「低く」という言葉が音の動きによって描かれているのが特徴です。

## 4. 合唱 And the Glory of the Lord

主の栄光がこうして現れるのを、肉なる者は共に見る。主の口がそう宣言されたのである。(イザヤ書40:5)

前曲を受けて主の栄光をたたえます。

## レチタティーヴォ (アルト) Behold, a Virgin shall conceive

見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。  
 (イザヤ書7:14)(マタイ1:23)

●受胎の知らせ  
 「見よ、おとめが身ごもって」という歌詞に合った、美しくゆったりとした語りです。

## 8. アリア (アルト) + 合唱 O thou that tellest good tidings

良い知らせをシオンに伝える者よ、高い山に登れ。良い知らせをエルサレムに伝える者よ、力を振るって声をあげよ。声をあげよ、恐れるな。ユダの町々に告げよ。「見よ、あなたたちの神を」と。起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝いているから。  
 (イザヤ書40:9、60:1)

マリアの受胎の知らせがエルサレムにもたらされる喜びを、アルトが美しいメロディーに乗って歌います。この曲は、そのまま合唱へと引き継がれ、人々の間を吉報が伝わっていきます。

## 9. アコンパニヤート (バス) For behold, darkness shall cover the earth

見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射出するその輝きに向かって歩む。  
 (イザヤ書60:2-3)

●闇の中の光  
 一転してバスの沈んだレチタティーヴォから、アリアに入っていきます。主の栄光が現れる前の「闇は地を覆う」「闇の中を歩む民」の様子が暗く・深く歌われ、この暗いアリアが、その次の大なる光へと繋がっていきます。なお、「大なる光(The great light!)」の部分は、明るく力強く歌われます。

## 10. アリア (バス) The people that walked in darkness

闇の中を歩む民は、大なる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。(イザヤ書9:2)



11. 合唱 For unto us a Child is born

ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。(イザヤ書9-6)

●聖誕

キリストの誕生を喜ぶ歡喜の合唱です。明快なリズムと巧妙な対位法技術を駆使しており、前の暗いアリアから一転、明るい合唱になります。曲中「権威が彼の肩にある(And the government shall be upon His shoulder)」というフレーズでは、「タターン、タターン」という足を引かずのような上昇音階が聞こえます。これは「受難のリズム」を意味し、ゴルゴダの丘に十字架を背負って登っていくことを暗示していると言われています。

12. 田園交響曲

キリストが生まれたところで一休みします。メサイア全曲の中で声楽が入らないのは、序曲を除くとこの曲だけです。「田園曲」ということで、非常に美しくゆったりとしたシチリア風のリズムをもったのどかな曲となっています。次の「羊飼いたちが野宿をしながら」に繋がっていきます。

レチタティーヴォ (ソプラノ) There were shepherds abiding in the field

その地方で羊飼いたちが野宿をしなが、夜通し羊の群れの番をしていた。(ルカ伝2:8)

●降誕の知らせ

降誕を天使が羊飼いたちに知らせに来るシーンです。短く語りかけるような曲が続きます。

13. アコンパニヤート (ソプラノ) And lo, the angel of the Lord

すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。(ルカ伝2:9)

レチタティーヴォ (ソプラノ) And the angel said unto them

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主なるキリスト(主メシア)である。(ルカ伝2:10-11)

14. アコンパニヤート (ソプラノ) And suddenly there was with the angel

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。(ルカ伝2:13)

ソプラノの語りを受けて、合唱の歌声が高らかに神を賛美します。後奏では、天使が遠くに飛び去って行く様子が描かれています。

15. 合唱 Glory to God in the highest

いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。(ルカ伝2:14)

16. アリア (ソプラノ) Rejoice greatly, O daughter of Zion

シオンの娘よ、大いに喜べ。エルサレムの娘よ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は義なる救い主であり、諸国の民に平和を告げる。(ゼカリヤ9:9-10)

●主の栄光

主の降誕の知らせは、シオンの人々に伝わっていきます。この喜びもヴァイオリンの通奏低音に伴奏されたソプラノの独唱によって歌われます。

## 第2部 受難と贖罪

### 19. 合唱 Behold the Lamb of the God

見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。(ヨハネ1:29)

#### ●人々の裏切り

メサイアの中でもいちばん長い曲で、ヘンデルが泣きながら作曲したといわれる感動的なアリアです。中間部で聞こえる「タッカ、タッカ」というオスティナートの伴奏音形が悲痛な様子を増長させます。

### 20. アリア（アルト） He was despised

彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っていた。彼は彼を打とうとする者にその背中をまかせ、彼のひげを抜こうとする者にはその頬をまかせた。彼は顔を隠さずに、嘲りと唾を受けた。

(イザヤ書53:3、50:6)

### 26. アコンパニヤート（テノール） Thy rebuke hath broken His heart

嘲りに彼の心は打ち砕かれ、彼は絶望に耐えかねた。彼はいたわってくれる者を捜し求めたが、ひとりもなく、慰めてくれる者も見つけることができなかった。(詩編69:20)

#### ●絶望と処刑

ここでは十字架が音形によって暗示されると共に、非常に大きな悲しみを静かなメロディーでテノールが歌います。

### 27. アリオソ（テノール） Behold, and see if there be any sorrow

目を留めよ、よく見よ。これほどの痛みがあったらうか。主を責めるこの痛みほどの。(哀歌1:12)

### 34. アリア（ソプラノ） How beautiful are the feet of them

平和の福音を説き、良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか。(ローマの信徒への手紙10:15)

#### ●平和の福音

キリストが復活し、平和の福音がもたらされた様子を、牧歌的で少し哀愁を帯びたメロディーによりソプラノが歌います。

### 35. コーラス Their sound is gone out into all lands

彼らの声は全地にひびきわたり、その言葉は世界の涯にまで及ぶ。(ローマの信徒への手紙10:18)

平和の知らせが全地に響きわたる様子が朗々と歌われます。

### 36. アリア（バス） Why do the nations so furiously rage

なにゆえ、国々は狂おしく騒ぎ立ち、人々はむなしい夢を抱くのか。なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して主に逆らい、主の油注がれた方に逆らって言うのか。(詩編2:1-2)

#### ●国王たちの反乱

キリスト復活の知らせはエルサレムから各国へと伝わっていますが、それを聞いた各国の王たちの反乱の様子がバスのアリアで歌われます。

### レチタティーヴォ（テノール） He that dwelleth in heaven

天に住まわれる方は、彼らを嘲笑し、主は彼らをあざけられるであろう。(詩編2:4)

#### ●天上ではそれを笑う

地上の王たちの様子を見てあざ笑う短いレチタティーヴォです。

### 38. アリア（テノール） Thou shalt break them with a rod of iron

お前は鉄の杖で彼らを打ち、陶工が器を砕くように砕くであろう。(詩編2:9)

続くアリアでは、地上の王たちの反乱が打ち砕かれる様子が力強く歌われます。



### 39. コーラス Hallelujah

ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた。この世の国は、われらの主と、そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される。「王の王、主の主」(ヨハネの黙示録19:6、11:15、19:16)

#### ●主の栄光への賛美

主の栄光を賛美して歌います。この曲は、ロンドン初演(1743年)で、感激した国王ジョージ2世が思わず立ち上がったことでも有名です。以後この曲を聴く時、聴衆は立ち上がって聴く習慣になりました。

キリストが生まれたところで一休みします。メサイア全曲の中で声楽が入らないのは、序曲を除くとこの曲だけです。「田園曲」ということで、非常に美しくゆったりとしたシチリア風のリズムをもったのどかな曲となっています。次の「羊飼いたちが野宿をしながら」に繋がっていきます。

## 第3部 復活と永遠の生命

### 40. アリア (ソプラノ) I know that my Redeemer liveth

わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには地の上に立たれるであろうことを。またこの肉体が病虫害に侵されようとも、わたしはこの身をもって神を仰ぎ見るであろう。なぜならば、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りにについている人たちの初穂となられたからである。(ヨブ記19:25-26、コリントの信徒への手紙一15:20)

#### ●復活への信仰

第3部の最初の曲は、田園的な雰囲気が始まります。「復活」への信仰が美しいソプラノのアリアで歌いあげられます。

### 42. アコンパニヤート (バス) Behold, I tell you a mystery

わたしは、あなたがたに神秘を告げる。わたしたちは皆、眠りにつくわけではない。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられるのである。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち一瞬のうちに。

(コリントの信徒への手紙一15:51-52)

#### ●永遠の生命

このバスは今までの荒々しく力強いバスとは一転して、やさしさに溢れた歌声で語りかけます。「わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられるのである。最後のラッパが鳴るとともに、たちまち一瞬のうちに。」という歌詞があるので、伴奏ではラッパの音が模されています。

### 43. アリア (バス) The trumpet shall sound

ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられる。なぜなら、この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになるからである。

(コリントの信徒への手紙一15:52-53)

最後の審判のトランペットが吹き鳴らされます。そのトランペットに合わせてバスが、高らかに永遠の生命への甦りを歌いあげます。

### 47. コーラス Worthy is the Lamb—Amen

屠られて、その血により、わたしたちの罪を贖ってくださった小羊こそは、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方である。玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように。アーメン。

(ヨハネの黙示録5:12-13)

#### ●アーメン

メサイア全曲の最後は、有名なアーメンコーラスです。神の小羊、キリストを賛美して歌います。途中でラルゲットにテンポが変わり、その後の「Blessing...」からは、男性合唱のユニゾンで歌い出されます。曲の最後、バスの「アーメン」から始まる詠唱は(バス→テノール→アルト→ソプラノ)の順で力強い合唱となっていきます。リズムと和声の明快さ、対照的な主題の結合法などヘンデルの合唱フーガの典型で、大曲を閉じるにふさわしい雄大な規模を持っています。最後に突如アダージョとなり、四声部が同時にアーメンを唱えてメサイア全曲の幕を閉じます。